

2019年度 公益社団法人 上伊那教育会

総研修会 「仰望の日」

令和元年5月22日（水） 長野県伊那文化会館

【開会・全員合唱 上伊那教育会の歌「仰望」】



【林 武司 上伊那教育会長 挨拶】

皆さん、おはようございます。

雪解けの水を湛えた水田には、5月のさわやかな風に早苗がなびき、ここ伊那谷に初夏の季節がやってまいりました。「平成」から「令和」へと歴史的な御代替わりが行われ、本日、2019年度上伊那教育会総研修会『仰望の日』を開催しましたところ、信濃教育会会長後藤正幸様をはじめ、ご来賓の皆様には、大変ご多用の中、ご臨席を賜り、本研修会が盛大に開催出来ますこと、心より感謝申し上げます。

また、会員の皆様方におかれましても、平日開催の意義をご理解いただき、主体的・前向きにご参集をいただき、誠にありがとうございます。

上伊那教育会は、「はじめに子どもありき」「限りなき土着性の追求」「たゆまぬ教師の研鑽」の三つの理念をもとに、明治12年の創立以来、職能研修団体としての道を歩んでまいりました。私は、上伊那では三つの学校に勤務させていただいております。

最初は北部の小学校。まだ若かった私は、子どもたちと地域を駆け巡り、また、地域の歴史や自然を子どもと共に学び、まさに地域にはまり込んだ教育の機会を与えていただきました。「限りなき土着性の追求」の一端をさせていただきました。

2校めは、現在も勤務させていただいている中部の小学校。「子どもが学ぶとはどういうことな



のか」子どもの事実に学ぶことに愚直なまでに徹し、子どもと共にくらしを作っていく毎日は、「初めに子どもありき」の理念そのものでした。

そして、南部の小学校。「子どもが生きる授業」を求めて、子どもの思いや願いをとらえ、教材と重ね合わせながらの授業作り、さらに授業についての仲間との徹底した語り合いと学び合い、そこに「たゆまぬ教師の研鑽」の日々を送らせていただきました。

上伊那教育の源流である三つの理念は、上伊那のどの学校でも、具現されていると思います。具体的な形で受け継がれてきたこの三つの理念を、子どもの姿で、そして教師の姿で、さらに後世へとつなげていくことが、今、上伊那に生きる私たちにとって大事なことであると思います。

本年度の上伊那教育会のテーマは「自ら求め、共にあゆむ」であります。教育を取りまく状況が相変わらず厳しい今、教師としての資質向上のために、そして子どもたちの健やかな成長のために、教育会の諸事業に自ら求めての参加参画を期待します。そして、そこで出会った仲間、先輩や後輩、地域社会と、人と人がつながり共にあゆんでまいりましょう。本日は、上伊那教育会の事業に参加参画し、仲間と共に歩んだ経験を振り返る場として、シンポジウムを企画いたしました。そこで語られる会員にとっての上伊那教育会の意味や課題を、明日の上伊那教育会につなげてまいりたいと思います。上伊那教育会で共に学びながら、教師としての自負を持って資質の向上に励み、自信を持って教育実践に取り組み、成長していく。そしてそのことが子どもたちの学びと育ちにもつながっていく、そんな上伊那教育会でありたいと切に願います。

さて、本日午後には、教科等教育研究会が主体となって、各種専門研修会が行われます。長い歴史と伝統をもつ教科等教育研究会が会員の皆様方の充実した研修の場となることを期待しております。

終わりに、本日の講演会の講師の紹介をさせていただきます。

国際ジャーナリストのモーリー・ロバートソンさんです。モーリーさんは、日米双方の教育を受け、1981年に東京大学とハーバード大学に同時合格するという経歴をお持ちになり、現在多くのテレビ、ラジオ番組にレギュラー出演をされておられます。本日は、「オモテナシからオトモダチへ～日本とアメリカで通用するがんばり術～」と題してご講演をいただきます。国際経験豊富なモーリーさんのお話を大変楽しみにしております。

午後の研修と合わせ、終日の研修となりますが、会員の皆様にとって有意義な一日となりますことをご期待申し上げ、挨拶といたします。

【後藤 正幸 信濃教育会長 来賓祝辞】

皆様、おはようございます。お招きいただき誠にありがとうございます。2019年度上伊那教育会総研修会仰望の日が盛大に開催されることに心よりお祝い申し上げます。また、歴史と伝統のある上伊那教育会が、林武司会長のもと、確かに歩み出されていることに敬意とお喜びを申し上げます。上伊那教育会をはじめ会員の皆様は、信濃教育会が将来にわたって確かに歩むために、この数年来進めて参りました様々な改革、改善にご理解とご支援を賜り誠にありがとうございます。

常なる大きな課題となっております会員減の歯止めが3年前10年ぶりに実現し、とりわけ昨年度末におきましては前年度比で100名近い会員増となりました。このことはまさに上伊那教育会



の皆様のご理解とご支援お取り組みのお陰であります。信濃教育会の定款には、各郡市教育会と連携をもって組織すると謳われております信濃教育会は上伊那教育会と連携し、先生方の先生方による先生方のための自主的職能団体として、共に手を携えて歩んで参ります。上伊那教育会員の皆様には大変お世話になるわけではありますが、本年度第133回信濃教育会総集会は12年ぶりの上伊那大会として来たる7月6日（土）に駒ヶ根市総合文化センターを会場に開催いたします。昨年度の新たな取り組みとして、多くの会員の皆さんから好評いただきました意見発表を継続実施いたします。ステージでの発表者による信濃教育会の諸事業に対する思いや存在、意味に関わる意見を元に、フロアの参加者が一緒になって、忌憚のない意見を交換し、長野県の教師としての有り様や、信濃教育会が将来にわたって歩んでいくべき道を、共々に考え合いたいと思っております。信濃教育会は、県下最初に設立された上伊那教育会と共に創設以来、明治大正昭和平成そして令和へと時代の変遷や社会の変革、教育改革の中を、常に全人教育の理念と教育実践を基盤にして、数々の困難を乗り越えて参りました。これからも上伊那教委会の皆様と連携しながら、日々ひたすら教育実践に取り組まれている先生方が一人一人の子どもに真向かうことを何よりも大事にされ、その実践と子どもの成長の事実を元に、多くの仲間と共に自己研鑽が積めるよう対応して参ります。また同事に、信濃教育会の存在をより多くの方々に身近に感じていただけるよう努めて参ります。共々に手を携えこの道を歩んでいきましょう。

結びになりますが、先週政府がとりまとめた一つの制度案が、70歳まで働く場拡大と報道されました。昭和24年生まれの私は今年まさに70歳の古希を迎えます。時代は今やスマホ全盛。子機は必要とされませんが、私はもとより信濃教育会をどうか皆様こき使っていただけますでしょうか。よろしく願いいたします。

上伊那教育会の一層の発展をご祈念申し上げお祝いのあいさつといたします。本日は誠にありがとうございます。

【シンポジウム 「上伊那教育とわたし」】

進行：宮田小学校 小澤 徳夫 会員

シンポジスト 箕輪中部小学校 丸山 翔平 会員 辰野東小学校 馬場 綾菜 会員



参会者の感想

- 新しい試みでよかった。若い先生方の思いや研修の成果を聞いてよかった。
- 新しい試みで出られている先生方が若い方たちで自分も頑張っていこうと思えた。司書の先生の話など、様々な立場の先生から話が聞けてとてもよいと思いました。
- 例年と違う企画で新鮮。三人の先生方に感謝です。出演者が大変良かった。司会の先生も進行を工夫され、うまくまとめられていた。特に司書の馬場先生の訴えには説得

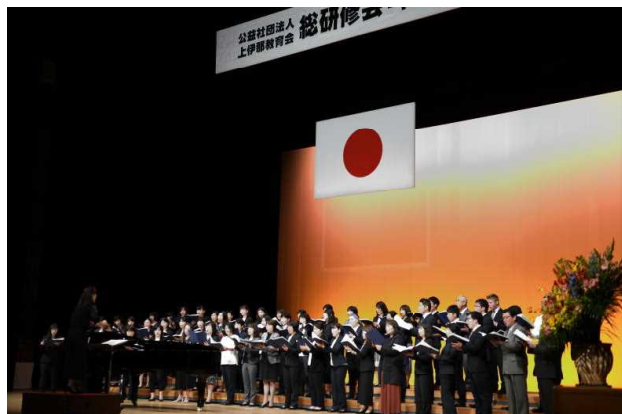
力があつた。

- お若いお二人の先生方が、上伊那教育会の研修事業に積極的に参加され、共に学ばれている姿に感銘を受けた。自らの研修のあり方を見返す機会となった。
- 率直な意見をお聞きでき、哲学、文学研修会へ参加したことのない者も、研修会の学びの様子を知ることができ、良い機会だった。
- 若い先生方が前向きに教育会の活動に参加していることを知ることができ良い機会でした。声をかける、背中を押す、挑戦する等、教育会員として出来ることをやっていきたいと思いました。
- 三大研修と言われる教育会研修については、関わった人でないと分からない部分があるが、このシンポジウムで活動の内容が分かった。

【会員合唱】

☆上伊那教育会合唱団による合唱『きみが君に歌う歌』・『ぜんぶ』

☆全員合唱『信濃の国』



参会者の感想

- 上伊那教育会に初めて参加したが、合唱団があり驚いた。限られた練習時間の中で素晴らしい歌声をありがとうございました。
- 心洗われるひとときとなった。合唱団の先生方が、お忙しい中集まって練習を重ねていらっしゃることに感謝したい。ぜひ今後も発表を続けてほしい。
- 美しい合唱を聴き、芸術にふれる時間が嬉しかった。練習時間を作り練習・発表する先生方に頭が下がります。
- 練習の都合をつけるのはとても大変だと思いますが、そんな中練習をしてくださって発表してくださってありがたい。
- 2階席まで響いており、充実したものであった。女声がすばらしかった。
- 美しいハーモニーと歌詞の内容が心に響いた。児童・生徒の心を大切にしたい教育をしていきたいと改めて思った。
- 音楽以外の先生方にも参加いただいて、気持ち・歌声の合った合唱となったと思

う。私の近くにいた方は、「きれい。あんなふう に歌えたら私も参加したい。」と 思う。私の近くにいた方は、「きれい。あんなふうに歌えたら私も参加したい。」とおっしゃっていました。各校で参加したいと思っている方もいるようなので、先輩の先生から背中を一押ししていただくと、合唱団も増えそうです。

【講 演】

「オモテナシからオトモダチへ ～日本とアメリカで通用するがんばり術～」

国際ジャーナリスト／ラジオパーソナリティー

モーリー・ロバートソン 氏



参会者の感想

- 日本にだけいると当たり前だと思っていたことも、世界的に見るといろいろなとらえ方があるのだと感じ、子どもたちにはどんどんチャレンジしていくことを勧めていきたい。
- あまり講演を聞くことのできる先生ではないので、良かったです。グローバルな視点からのお考えを知ることができました。
- 途中のハラハラする発言も含め、肩に力を入れず話を聞くことができた。教育から少し離れた内容の講演をも視野を広げる為に良かった。
- 教育関係者とは異なる視点からのお話を聴くことができ、私達の視野・視点を広げる上でも大変勉強になった。日本教育の強みと弱みを丁寧に言語化していただいた。
- 教員をやっているとなかなか狭い世界になりがちであるが、世界を舞台にして活躍している方のお話を聴くことができ、新しい視点を与えていただいた。今後のグローバルな人材を育成しなくてはならない私たちにとって参考になるものであった。
- 相手を理解して受け入れる、反対の視点で考えられる、心をちょっと広く持つ…、大切なことを教わりました。また、ディベートができる子どもたちに。まず自分の考えがしっかりともてる子にしていかななくてはと感じた。

会員の皆様、そして地域の皆様のご理解とご協力により、本年度も充実した「上伊那教育会総研修会『仰望の日』」となりました。誠にありがとうございました。

